

乳製品需給等情報交換会議（概要）

日時：平成30年10月23日（火）13:30～15:00

場所：農畜産業振興機構北館6階会議室

主な意見：

（ホクレン）

北海道では、停電や自給飼料の品質等の懸念はあるが、昨年度よりも乳量が増えつつあり、乳用雌牛も増加してきているので、今後、乳量が増えていくことに期待している。

（東宗谷農業協同組合）

道北は気象条件が厳しく、それなりに停電の対応にも慣れていたため、地震の影響はそれほどなかった。ただし、関係者でリスクをカバーしつつ、災害に強い対策を打っていくことが重要。

（全国消費者団体連絡会）

猛暑や災害等でテレビでも酪農現場が取り上げられていた。まだ、バターのお一人様1点限りはまだ残っているので、きちんと説明してやめてもらうことが重要。また、台風や震災を発端としたツイッター等により、買いため等が起きないように、消費者に適切な情報を伝えていくことが重要。

（中央酪農会議）

都府県の生乳生産については、前年度を下回っているが、年度当初の予想よりは伸びている。リスク分散の観点から、都府県の生産者にも生産基盤の回復を頑張っていたきたい。また、都府県の出生頭数も例年より増えているので、今後の都府県の生乳生産の回復は期待できる状況になりつつあるのではないかと。

（全国菓子工業組合連合会）

バター供給について、組合員からは、バターが足りないという意見は来ていない。

（全日本洋菓子工業会）

バター供給が安定していると聞いて安心した。組合員にこの情報を流したい。

（日本パン工業会）

バターが足りないという声はなかった。

（日本乳業協会）

農水省からの1月のバターの輸入枠のアナウンス、5月、9月の検証といったことが適切に機能している。消費者に、安定供給していることを伝えていくことが重要である。

（以上）